

## METTS NEWSLETTER

教職課程センター・地域学校教育センター

特集 2024「大学と地域連携の未来」シンポジウム開催  
大学と地域の連携によるウェルビーイング推進の可能性

2月4日（日）、今回で8回目となる、2024明海大学「大学と地域連携の未来」シンポジウムが、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催されました。来学者を含め約210人が参加しました。

開会式では、本学の学生である橋口和希さんと清宮咲歩さんが総合司会を務め、高野敬三副学長、足立区近藤やよい区長、浦安市教育委員会鈴木忠吉教育長からご挨拶をいただきました。

## 当日プログラム

- 12:30 **開会式**
- 12:40-13:40 **基調講演**  
講師：露口 健司 氏（愛媛大学大学院教授）  
演題：「子供を取り巻くつながりが生み出すウェルビーイング」
- 13:50-15:20 **学生発表**
- |       |                  |
|-------|------------------|
| グループA | 大学生による日本語指導支援    |
| グループB | 留学生等による児童・生徒との交流 |
| グループC | 大学生による学習支援       |
- 15:30-16:30 **パネルディスカッション**  
テーマ：「大学と地域の連携によるウェルビーイング推進の可能性」
- 16:40 **閉会式**

基調講演では、愛媛大学大学院の露口健司教授から、ウェルビーイングとは何か、子供のウェルビーイング、子供と地域の関係、ウェルビーイングを循環させるためのリーダーシップの在り方などについて、示唆に富むお話を伺いました。

地域連携事業についての学生発表では、都立高校や足立区、浦安市などで行われている日本語指導支援や学習支援、本学留学生との交流会などが紹介されました。

パネルディスカッションには、露口教授、足立区教育委員会三輪政継続括指導主事、東京都立飛鳥高等学校堀江敏彦校長、本学学生の高木由紀さんと宿愛敏さんが参加し、地域学校教育センター副センター長山本聖志教授のコーディネートのもと、本学地域連携におけるウェルビーイング推進の現状と課題や取組について議論が行われました。

右：基調講演  
露口 健司 氏



学生たち一人一人が、司会や発表者、パネリストの役割をしっかりと果たし、今年も有意義なシンポジウムを開催することができました。



総合司会の橋口さん、清宮さん



グループCの学生発表



パネルディスカッションの様子

## &lt;参加者アンケートから&gt;

【基調講演】ウェルビーイングとかエージェンシーとかに関心があり、グラフを用いるなどしてわかりやすく感じました（教員）。教師を目指すものとして今周りで起きていることや、自分のことに関して深く学べる点がありました（学生）。子どもを中心としたつながりの中で、それぞれのウェルビーイングとは何かを考える機会となりました。現状を振り返りつつ今後の展開を考えることができました（教育委員会）。

【学生発表】学生の取り組みに対する熱心さが伝わってきました（教員）。それぞれの連携事業に学生がどのような気持ちで臨んでいるのかがよくわかりました（教育委員会）。

【パネルディスカッション】ウェルビーイングについてよくわかっていない部分も多かったけれど、パネルディスカッションでとても理解することができました（学生）。ウェルビーイングについて様々な観点からお話を聞くことができました（学生）。

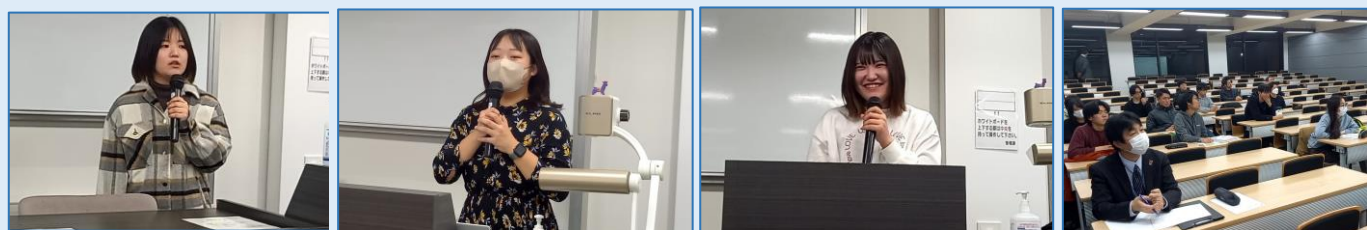
## 教員採用試験説明会・合格体験報告会

1月15日(月)には、東京都教育庁職員による東京都教員採用試験説明会を開催し、教職課程を履修している2、3年生52人が参加しました。また、1月18日(木)には、千葉市教育委員会職員による千葉県・千葉市教員採用試験説明会を開催し、2、3年生44人が参加しました。教員になることの魅力、研修制度、教員の働き方改革、給与等待遇面、教員採用試験のあらましなどについて具体的に説明していただきました。それぞれの説明会終了後には、今年度教員採用試験に現役合格した学生の中から、東京都は日本語学科4年門馬大翔さん、英米語学科4年向後志穂さん、吉田未来さんが、千葉県は日本語学科4年網中萌恵さん、橋口和希さん、英米語学科4年川元麻衣さんが登壇し、準備を始めた時期、役に立った勉強法と避けたい勉強法、やっておいた方がよいこと、実際に受験して気がついたことや気になったこと、ためになったMETTSのサポート、教員採用試験に向けての心構え、後輩へのアドバイスなどを語ってくれました。参加者からは、「教員になりたいという気持ちが一層強くなった」「想像していたより近年は教員に対する負担などが軽減されていることを知った」「先輩たちの勉強法を活用したいと思った」などの感想が聞かれました。



## 教職ボランティア活動報告会

1月17日(水)、2023年度教職ボランティア活動報告会が行われました。英米語学科4年生の上原二葉さん、児島晴香さん、吉田未来さんの3人は、4年間で60時間以上のボランティア活動を行い、その成果をプレゼンテーションソフトを使いながら学生や職員の前で発表しました。発表後、大澤貴士学生支援担当課長と石鍋浩教職課程副センター長から講評をいただきました。延べ90時間の活動を行い、卒業後に千葉県の中学校で英語の教員となる児島さんは、「様々なボランティア活動を通して、小学生と触れ合ったり、学校現場に行って授業に参画したりすることで、より実践的な知識を得ることができました。ボランティア活動で培った経験を最大限に活かし、信頼される教員になります」と話していました。



## 足立区との教育連携事業 足立区立第十中学校

1月30日(火)、足立区との連携協定に基づく事業の一環として足立区立第十中学校の2年生160人を対象に英語による異文化交流会を開催しました。本学からは韓国、中国、ドイツ、ドミニカ共和国、ネパール、フィリピン、ベトナム出身の留学生11人が参加しました。授業では、初めに留学生が5分程度で自国の紹介をし、続いて中学生の代表10人が留学生に紹介したい日本文化について発表をしました。その後、クラス全体を7グループに分け、各グループに留学生が加わり、留学生が持参した写真を使って自己紹介をしました。中学生はいろいろな質問をして、最後まで活発に英語でのコミュニケーションを楽しんでいました。参加した中学生からは「今日はとてもいい勉強になったし、実際に外国の人と話してみたら自分がどれだけ話せるかがわかった。もっと日々の英語の勉強を頑張り、外国の人たちと流暢に話せるようにしたい」「今までは日本にしか興味がなかったけど、今回交流をしてみてもっと知りたいと思いました」といった声が聞かれました。



アゴラ活用状況(人)	
1月	199
2018年度からのべ数	63621